

第1章

住環境の変化が生んだ問題 住まいと健康の新事情

現代の住宅の構造や使われている建築材料は、むかしとくらべると大きくかわってきました。また、毎日の生活のなかで使っている冷暖房機器や家庭用品なども、新しい材料やしきみのものが次々につくられています。

こうした住まいをとりまく環境の変化は、わたしたちの生活を便利に、豊かにしてくれました。しかし、その一方で、新しい問題も生みだしているのです。



むかしの住まい

木造



自然に換気ができ、湿度も調整できる

気密性の高い 「現代の住宅」

むかしの日本の住宅は木造で、床にはたたみが敷かれ、ふすまや障子で部屋と部屋を仕切っていました。

こうした伝統的な住宅は、日本の高温多湿の気候にとってもあったものなのです。

たとえば、木の柱や紙製の障子やふすま、たたみなどは、湿気が多いときには空気中の水分を吸収し、乾燥しているときには放出して、部屋の湿度を快適に整えることができます。床下や天井も通気がよく、湿気はこもりにくくなっていました。また、室内に湿気やけむりがこもっても、適度なすき間があったので、自然に外の空気

との入れ換えができていたのです。

これに対して、現代の住宅はどうでしょうか。現代では、都市に人が集中しているため、鉄筋コンクリートの集合住宅がふえています。工事期間が短く、しかも安価な建築方法が広がっています。そのため、壁はコンクリートや合板、壁紙など、床はフローリングやビニールクロス、窓はアルミサッシというつくりが多くなっています。

コンクリート壁では、湿度を調節できないどころか、じゅうぶん乾いていない場合は、逆に部屋の湿度を高めてしまいます。薄い合板やフローリング、ビニール製品も湿気を吸収することはできません。天井裏や床下も通気性が悪く、湿気がこもりやすくなっています。

また、アルミサッシは気密性が高いため、湿気や建材から放出された化学物質が、部屋のなかにもこもってしまうことになるのです。

現代の住まい

コンクリートや合板の壁

都市への人口集中による集合住宅の増加

新しい建築方法や建材の使用



気密性が高く、湿気がこもりやすい